

尺度使用マニュアル

<尺度名>

被害妄想に伴う感情を測定する尺度(EPDS)

<測定概念>

被害妄想は、“自分が攻撃されている、悩まされている、だまされている、迫害されている、陰謀を企てられているという誤った信念”のことで、妄想の中でも最も頻繁にみられる主題である(American Psychiatric Association, 2000 高橋・大野・染矢監訳 2002)。最近では通常の信念と妄想は連続的であると仮定されることも多く、本尺度もその前提に立っている。妄想に伴う感情のアセスメントツールはいくつかあるが、本尺度は、対象とする被害妄想の内容を統一していることと、感情の強度を数値で評価できることを特徴としている。

<適用範囲>

非臨床群を対象として尺度開発がなされたが、臨床群にも適用可能であると思われる。年齢については高校生以上であれば使用可能であると思われる。

<尺度構成手続き>

心理学を専門とする 8 名の研究者に、日常生活で生じうる被害妄想について自由記述を求めた。それらをもとに、著者を含めた 2 名が討議して、不安と怒りのいずれも喚起しうる被害妄想に関する項目を 6 つ作成した。

<信頼性>

内的整合性を示す Cronbach の α 係数は、“被害妄想に伴う不安”が $\alpha=.84$ ，“被害妄想に伴う怒り”が $\alpha=.80$ であり、十分な内的整合性が認められた。

<妥当性>

“被害妄想に伴う不安”と“被害妄想に伴う怒り”から成る 2 因子モデルを構成し、検証的因子分析を行った。適合度は GFI=.93, AGFI=.89, RMSEA=.08, AIC=239.96 と比較的良好であった。また、2 つの感情をまとめた 1 因子モデルの適合度は GFI=.81, AGFI=.71, RMSEA=.14, AIC=488.95 で、いずれも悪い値であった。これらの結果は、2 因子モデルの因子的妥当性が高いことを示している。改訂版自己関係づけ尺度(金子, 2000)との相関分析を行ったところ、“被害妄想に伴う不安”と“被害妄想に伴う怒り”は、自己関係づけと有意な正の相関を示した(それぞれ $r=.57$, $r=.48$, いずれも $p<.01$)。同様に、妄想観念チェックリスト(丹野・石垣・杉浦, 2000)の“疎外観念”“被害観念”“被好意観念”“他者操作観念”についても検討を行ったところ、“被害妄想に伴う不安”と“被害妄想に伴う怒り”はともに、被害観念($r=.55$, $r=.41$, いずれも p

<.01), および疎外観念($r = .50$, $r = .34$, いずれも $p < .01$)と有意な正の相関を示した。被好意観念と他者操作観念についてはいずれも有意な相関がみられなかった。これらの結果は尺度の併存的妥当性および弁別的妥当性を示唆している。

<採点方法>

6つの被害妄想が書かれており、そこに書かれているような考えを今までに少しでも抱いたことがあるかどうかを“ある”“ない”の2件法で回答する。“ある”と答えた場合には、そのときにどの程度“不安を感じたか”や“怒りを感じたか”について、それぞれ“1. ほとんど感じなかった”“2. あまり感じなかった”“3. どちらともいえない”“4. 少し感じた”“5. 非常に感じた”の5件法で回答する。はじめの質問に“ない”と回答した場合には0点として計算する。“被害妄想に伴う不安”も“被害妄想に伴う怒り”も、6つの得点を単純に加算することで尺度得点とする。

<尺度の使用について>

研究目的に合わせて尺度を改変することは可能である。

(出典文献)

津田恭充 (2011). 被害妄想に伴う感情を測定する尺度の開発 パーソナリティ研究, **19**, 245-254.

<連絡先>

津田恭充 (名古屋大学大学院環境学研究科)

E-mail: tsuda.hisamitsu@c.mbox.nagoya-u.ac.jp

<無料・有料の別>

無料。

<著作権関連情報>

出典を明記したうえで自由に使用可能。